第１学年　　　道　徳　科　学　習　指　導　案

１　主　題　名　　わがままをしないで　（Ａ　節度、節制）

２　教　材　名　　「かぼちゃのつる」（「小学道徳　１」教育出版）

３　本時の指導

（１）ねらい

　　自分勝手な行動は自分も周りの人も嫌な思いをすることに気付き、わがままや自分勝手な行動を

しないで生活しようとする心情を育てる。

（２）準備・資料　教師・・・場面絵、短冊カード

　　　　　　　　　児童・・・教科書、ワークシート

（３）指導過程

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 学習活動 | ・留意点　☆教師の支援　**□**評価の視点と方法 |
| つかむ  5  分 | １　普段の生活の中で、わがままな行動を思い起こす。  今までの生活の中で、先生やおうちの人に注意されたことはありますか。     * ろうかを走っていて、先生に注意された   　ことがある。  ・　ゲームの時間を守ることができなくて、おうちの人に怒られた。 | ・　児童が普段の生活を思い起こし、価値への方向づけをする。  ・　なぜやってしまったのかを問い返し、普段の生活の中で、わがままなことをしていることに気付かせる。 |
| 考える  35分 | ２　教材「かぼちゃのつる」の範読を聞く。  ３　ぐんぐんつるを伸ばすかぼちゃの気持ちを  考える。   * もっともっと伸ばすぞ。 * あっちまでいきたいな。 * ぼくって、すごいだろう。   ４　こいぬに話しかけられたときのかぼちゃの  　気持ちを考える。   * うるさいな、別にいいじゃないか。 * もっと伸ばしたいんだ。 * またいで通ってよ。   ５　つるを切られて、涙を流しながら、自分のし  　た行動について振り返るかぼちゃの気持ちを  　考える。  　・　こんなところまで、つるを伸ばさなければよかった。  　・　みんなの言うことを聞いていればよかった。  　・　わがままを言わなければよかった。  　・　痛いよ、せっかく伸ばしていたのに切られてしまった。  　・　ぼくのつるを切った車を許せない。  　・　わがままを言っていたせいで、こいぬやみつばちにも迷惑をかけてしまった。  ①　ワークシートに記入する。  　②　隣同士で交流する。  　③　全体の場で発表する。 | ・　登場人物、状況をおさえる。  ・　かぼちゃが自分の思い通りにつるをのばしていくときの気持ちよさや、たくましさを共感させる。  ☆　かぼちゃの表情やせりふに注目させる。  ・　自分が思い通りにしていたことに対して、次々と注意されたことに腹を立て、まわりの迷惑やその後のことを考えずにつるを伸ばし続けるかぼちゃの気持ちに気付かせる。  ☆　かぼちゃに言われたみつばちやすいか、こいぬの気持ちも考えさせ、注意を聞いてくれないといやな気持ちになることを押さえる。  ・　つるを切られて初めてやっと自分の行為がわがままだったことに気付き、反省するかぼちゃの気持ちに共感させる。  ぽろぽろ、ぽろぽろ涙を流しているとき、かぼちゃは心の中で、どんなことを思ったでしょう。  ☆　考えがまとまらない児童には、かぼちゃはどうすればよかったのか考えさせる。  ・　みんなの注意を聞かず、自分のわがままを通したために、自分も痛い目にあったこと、みんなにも迷惑をかけたことに気付くことができるようにする。  ☆　痛くなってしまったのは、誰のせいなのか、車は通っていけなかったのかを聞き、感情やまわりのことではなく、かぼちゃ自身の行動について振り返ることができるようにする。  ・　机間指導を行い、各児童の考えを把握し、次の指名に役立てる。  ・　交流の際は、お互いのワークシートを交換したり、書いたことを話したりして、友達の考えを共有できるようにする。  ・　発表を聞くときには、自分の考えと比較しながら聞くようにさせる。    わがままや自分勝手な行動を反省しているかぼちゃの気持ちに気付くことができる。  （ワークシート・発言） |
| ふりかえる  5  分 | ６　学習を振り返る。 | ・　今日の授業を通して、かぼちゃから学んだことから、自分もまわりもよい気持ちで生活するために、どのような生活をしていけばよいかをワークシートに書かせ、発表させる。  自分も周囲の人も気持ちよく生活にするために、どうしたらよいかを考えることができる。  （ワークシート・発言） |